企業・地域団体・学校様向け

出張版
「防災キャンプそなえ」のご提案

～あなたの地域や企業をフィールドに実施
1泊2日の経験を災害から命を守る一助に～

宮城県防災指導員認定者企画
主催：一般社団法人南三陸町観光協会
担当：及川・佐藤

大震災を経験したからこそできる本当の備え

2011年東日本大震災は未曽有の被害をもたらしました。その後も熊本地震や台風、土砂災害などが続き、自然災害での被害は後を絶ちません。

関東から九州・沖縄地方までの広範囲での被害が想定される
南海トラフ地震は30年以内の発生確率が70-80%と言われています。

南三陸町でも過去にも何度も津波の被害を受け、地震・津波への「備え」は行っていました。しかし、東日本大震災では想定外の津波が甚大な被害をもたらしました。

「2度と同じような思いはしてほしくはない」

この震災で私たちが得た実体験から、
災害の発生時にするべき本当の「備え」を体感していただきます。

プログラム概要　～「知る」から「できる」そなえへ～

①インプット→→→学ぶ

東日本大震災を経験した語り部ガイドによる講話を通して、
自然災害や避難所生活を知ります。

②実践→→→経験してみる

実際に避難場所となる体育館や集会所を利用し、ライフラインが止まった
状況下を再現、避難所運営や避難1日目を体験します。
非常時での利用を想定した食料や簡易トイレなども実際に使用します。

③アウトプット→→→次への備えとする

「もしここで災害が起きたら」を想定したワークショップを実施。
実践で学んだことを自分事として次の災害に備える指針づくりをします。

防災キャンプそなえ　で得られること

①震災・避難生活を知る・・・
多くの方が経験したことのない大規模な自然災害を知ることは「そなえ」に繋がる第一歩です。

②自助・共助・公助・・・
発災時に大切だと言われるキーワードをプログラムの中で考え、いざという時の判断へ繋げます。

③状況判断力を身につける・・・
本番を想定したシュミレーション経験があるかないかは、冷静な判断力へ直結します。

④チームワーク・リーダーシップを身につける・・・
不特定多数が集まる避難所での生活や運営のために大切なスキルを考えます。

⑤工夫する力を身につける・・・
限られたもので、必要なものを作り出す能力は、発災時に大変役立ちます。

防災キャンプそなえ　モデルコース

時　間	実　施　項　目	内　容
【1日目】		
13：00	オリエンテーション	東日本大震災時の体験について講話（当方より） 普段の防災意識等のヒアリング
14：00	フィールドワーク	発災時、実際に想定されている避難ルートや避難所、備蓄庫の確認等を行います。
15：30	避難所運営訓練①	運営者、避難者役に分かれ、避難所で起きうる事を体験します。 その場の状況や避難者の要望が常に変化し、その都度の判断が求められます。
16：00	避難所運営訓練②	ライフラインが全てストップした中で、様々なミッションが与えられます。 参加者で協力し、食事やトイレ、寝床の確保を行います。
19：30	震災当時の語り	東日本大震災を経験した方が震災直後の大変だったエピソードや実際に役立ったこと、教訓をお話します。
21：00	1日目終了	
【2日目】		
6：30	シュミレーションワークショップ	前日の発災や避難所運営、非常食や炊き出し訓練を踏まえ、 企業や地域での備えについて考えるワークショップを実施します。
8：30	そなえ宣言	「いつまでに何をするか」本プログラムで終わらせず、これから実際に取り組むべきことを「そなえ宣言」で発表します。
9：00	1泊2日のプログラム終了	

実施イメージ

東日本大震災について共有

想定外の出来事にいかに対応できるか

限られた物資をどう利用するか

ライフラインが停止した状況で食事の準備

自分事に置き換え、次に何を備えるか考える

防災キャンプ実施実績

実施時期	実施団体
【当町での実施実績】	
2015.10月	建設コンサルティング系企業（東京都）
2015.12月	建設コンサルティング系企業（東京都）
2016.6月	建設コンサルティング系企業（東京都）
2016.7月	教職員組合（沖縄県）
2016.8月	高校生団体 （長野県内　社会福祉協議会主催）
2017.8月	教職員組合（沖縄県）
2017.8月	高校生団体 （長野県内　社会福祉協議会主催）
2017.8月	大学団体（愛知県）
2018.8月	※実施予定　高校生団体（愛知県）
2018年.8月	※実施予定　教職員組合（募集型）
【出張での実施実績】	
2018.2月	大学構内での実施（愛知県）

ご希望があれば当協会で一般参加者を募集することも可能です。
団体様の中に知らない参加者が加わることでさらにリアルな状況が再現されます。

プログラム料金（概算） 南三陸町内での実施に比べ、費用は半分以下！！

項目	金額	備考
プログラムコーディネート料金	@70,000円 （コーディネーター1名の料金）	参加人数により必要コーディネーター数が異なります。 ～30名まで/CDN 5名必要 ～60名まで/CDN 7名必要
旅費交通費 （概算　移動・宿泊含む）	@35,000円 （コーディネーター1名の料金）	30名で東京実施の場合 （コーディネーター人数分の費用が必要となります。）
現地フィールド下見・打合せ料金	50,000円	コーディネーター1名の派遣 （宿泊交通費別途）
備品使用料	50,000円	当協会の備品使用料 発送費別途
バス借り上げ料金	50,000円	フィールドワークで利用する場合に発生
消耗品費	30,000円	食料・水などの消耗品購入 1,000円×30名参加の場合

【料金に関する注意事項】

・避難所となる施設や社内に備えている備品を使用する場合、備品使用料や消耗品費が異なります。

・体験中の怪我等に備えるため、お客様自身で傷害保険に加入することをお勧めしています。

実施までの流れ

①お問合せ・ヒアリング・・・
まずはお問合せをいただき、プログラムの活用について一緒に検討させていただきます。

②見積書作成・・・
ヒアリングに基づいて見積書を作成いたします。※見積提出までは無料となります。

③実施決定・下見訪問・・・
実施が決定した場合、フィールドの設定・確認のため、担当者が現地を訪問いたします。

④実施に向けた準備・調整・・・
電話やメールで連絡調整しながら、本番への準備を進めます。

⑤本番・・・
2日間の防災キャンプそなえを実施します。

⑥精算・・・
プログラム実施後に請求書を発行します。

⑦実施特典→→→次のページで確認してください！！

【実施に関する注意事項】
・参加人数はよりプログラムの効果を高めるため20名以上（～60名）に設定しています。
・実施にあたっては実施希望日の2ヶ月前までのご予約をお願いいたします。

2つの実施特典

特典①
ポケット版災害対応マニュアルを作成

本プログラムは企業や地域団体様と綿密な打ち合わせを重ね、実施するものです。
既存の防災マニュアルやプログラム中に参加者から出たアイデアや声を反映させたポケット版対応マニュアルを作成して、配布いたします。
（1,000部まで　それ以上は料金別途発生）

対応マニュアル一例

特典②
語り部講演会の開催

通常は1本20,000円～（交通費別途）の出張講演を、本プログラム実施の1日目もしくは2日目に講師料半額でることが可能です。
企業や地域でのセミナーや講演会でお役立てください。
（会場等は主催団体にてご用意いただきます）

私たちだからできる「備え」

避難訓練は毎年行っていた
避難「所」訓練は行ったことがない
「やったことがある」経験を持つことの重要性を知った

災害で命が失われないように
この地域から「備え」を伝えていきたい

実際の災害が起きても
しっかり行動できるように